

コラム 極東都市環境セミナーで講師を務めました

2015年9月14日(月)～17日(木)の4日間に亘り、ロシア連邦・ハバロフスク市及びユジノ・サハリンスク市において「極東都市環境セミナー」が開催され、寒地道路研究グループ寒地交通チームの宗広主任研究員が講師として招かれ、「日本の積雪寒冷地における道路建設」と題し講演を行いました。本セミナーは、主催が国土交通省並びに独立非営利法人日本センター(ハバロフスク/サハリン)により、開催されたものです。

セミナーでは、上下水道や廃棄物処理などの環境技術に関する環境セッションと寒冷地の道路建設技術に関する建設セッションが行われました。当所の外に、北海道内自治体(帯広市、旭川市)や民間企業13社からのプレゼンテーションも行われました。ハバロフスクでは、地方行政府・市行政府、民間企業の技術者の外、太平洋国立大学建設学部及び極東国立交通大学の教授、学生からの出席があり、計60名が参加しました。特に、極東国立交通大学のKudryavtsev Sergei 副学長は、同大学の学生15名とともに出席頂き、活発に質疑に参画してくれました(写真-1)。また、サハリンでは、民間企業の技術者計40名が参加しました(写真-2)。参加者は、我が国の寒冷地技術に対し、強い関心を寄せていました。

ロシア極東では、ロシア政府施策の遂行並びに現地の経済成長も相まって、ダイナミックな道路インフラ投資が展開されています。例えば、サハリン縦断の国道が「2+1」車線道路構造により整備が進められています(写真-3)。

寒地土木研究所では、2011年より、ロシア極東国立交通大学並びにロシア極東連邦大学の2大学と研究協力協定を締結し、研究者の交流や技術普及に資するセミナー開催等の活動を進めてきています。今後も、協定の相手機関並びに現地の日本政府系機関と連携し、寒冷地道路技術の技術移転に貢献することが期待されています。



写真-1 セミナー参加者と共に
(於：ハバロフスク日本センター)



写真-2 セミナー参加者と共に
(於：サハリン日本センター)



写真-3 「2+1」車線道路
(ユジノ・サハリンスク～コルサコフ間)